



11月22日

(その1)

「首都圏本部におけるワンマン運転の実施について」提案を受ける！

●会社の考え

グループ経営ビジョン「変革2027」を踏まえ、安全の確保をベースとして、業務を高度化し人口減少や技術の進展等の社会環境の急速な変化に対応しながら、お客さまが求める輸送サービスを提供していくため、確立した技術等を導入し、線区・区間を限定せずワンマン運転の実施に向けて検討・準備を進めているが、このたび常磐緩行線においてワンマン運転を実施する。

●実施線区・区間:常磐緩行線(綾瀬～取手間)

●実施箇所:綾瀬運輸区

●対象車両:JR東日本E233系、東京地下鉄16000系、小田急電鉄4000形(各10両編成)

●実施内容:

- ・列車のドア扱いは、**運転室に整備する車載ホームモニタシステム**で、**運転士がお客さまの乗降状態を確認し、ワンマンドアスイッチを操作してドアを閉扉**する。
- ・**お客さまへの案内は自動放送装置**により行う。**必要により、運転士が車内放送マイクで案内放送**を行う。

●実施時期:2024年度下期

●実施スケジュール

年度	2023年度		2024年度	
内容		▽提案	訓練	実施★

●その他

- ・具体的な実施日等については、決定次第お知らせする。
- ・施策実施に向けて教育・訓練等の必要な準備を進めていく。
- ・その他の線区・区間についても、ワンマン運転の実施に向けて引き続き検討・準備を進めていく。



11月22日

(その2)

「首都圏本部におけるワンマン運転の実施について」提案を受ける！

●会社の考えについて

組合

会社

- ◆お客さまが求める輸送サービスとは何か。
- ◆確立した技術とは。
- ◆お客さまが求める物とワンマンが結びつかない。

- ◆様々な技術には課題もある認識である。

- ◆安全の確保は出来るのか。

- ◆GOA レベルはいくつになるのか。また、関係省令に問題はないのか。

- ◆例を挙げると混雑時のスムーズな列車運行。
- ◆ホーム上の状態を確認するシステムやATO等。
- ◆フレキシブルな対応につながる。予想外の対応では、運転士と車掌と車両が準備できて設定できるが、ワンマンなら運転士と車両で設定できる。
- ◆ホームドアに関しての機器は、ワンマンとは別である。ワンマンで必要な省令やルールで定められている機能は付けてもらうように要請している。
- ◆車掌が省略となるが、車掌の業務が機械に置き換えられたり、運転士が行うものをトータルで考えたときに安全レベルは維持できる。
- ◆GOA2となる。鉄道に関する実施基準の技術上の基準を定める省令の第86条をベースに、第100条を意識している。

●実施線区・実施時期について

組合

会社

- ◆提案に至った経緯は。

- ◆常磐緩行線の決め手は何か。

- ◆JR・メトロ・小田急と3社に跨るが、JRのみがワンマンを行うのか。
- ◆正式な発表はいつなのか。

- ◆すでに2025年～2030年に向けて首都圏各線区で行うことは周知しており、車両の設備・地上の設備・訓練等が揃ったら出来るものとして考えている。常磐緩行線については、ハード的な部分是不確定要素はあるが目途が見えてきたので、次はソフト面・訓練等を行っていくために、このタイミングで説明となっている。
- ◆工事の進捗状況を踏まえて、訓練を始める段階に来ている。
- ◆現時点、2024年度下期で進めているのはJRのみ。
- ◆車両改造・地上設備が予定通りに進み、訓練も進んでいるのを総合的に判断した上で、正式に発表する。

●これまでのワンマン運転の成果と課題について

組合

会社

- ◆課題と成果は。

- ◆車両故障でワンマンからツーマンになった事象はあるのか。
- ◆中編成の課題はなかったのか。

- ◆首都圏での長編成のワンマンは未知な部分ではあるが、短編成・中編成等見てきており、車掌を経験されている方も多いので、安全と案内・サービスを両立して不安が無いように行っていく。
- ◆ワンマンにするための設備の条件・省令があり、壊れた場合はツーマンにしなければならない。
- ◆機械が全てではない。安全・サービスの教育を行う。



11月22日

(その3)

「首都圏本部におけるワンマン運転の実施について」提案を受ける！

●実施箇所(綾瀬運輸区)について

組合

会社

◆**運転士が残って車掌が居なくなるということか。**

◆現在230名在籍する綾瀬運輸区の社員数はどうなるのか。

◆動力車操縦者免許を持った車掌はどうか。

◆本人希望を聞いてもらえるのか。

◆運転士だけになったとき、綾瀬運輸区の名称変更は。

◆人事の話で決まっているものではないが、ワンマン運転という形で**車掌の仕事は綾瀬運輸区には残らなくなる。異動は一定程度発生するものである。**

◆成案になり次第お伝えする。車掌という仕事はなくなっていく。現時点で決まっているものではない。

◆綾瀬運輸区で運転士になったり他箇所でも運転士になる可能性はあるが現時点で決まっていない。

◆**面談や様々管理者とのコミュニケーションの場もある。**

◆今段階考えていない。

●対象車両について

組合

会社

◆常磐緩行線に乗り入れている全車両が対象か。それぞれの編成数と改造の進捗は。

◆機器の不具合が発生しており、出区点検でNGが出る。サービスの低下にもなっている。

◆避難用ハシゴは車内に設置するのか。

◆その通り。JR17編成中16編成、メトロ37編成中22編成、小田急14編成中8編成の改造が完了している。

◆運行に支障が出るものは直していく。車両センターとも意見交換をしており、伝えていく。

◆避難用ハシゴは床下に積んでいる。従来と変わらない。

●実施内容について

組合

会社

◆自動放送装置が使えない場合はどうするのか。

◆**異常時はどうするのか。**

◆**必要により運転士が案内放送とあるが、走行中はやるべきではない！**

◆ラッシュ時間帯は平均して乗降人数は何%位か

◆1000人をモニターで見ると閉めるのは怖さを感じる。

◆メトロ車が多いと聞いているので改善を求めていく。

◆**決まっていない部分があるので、現場からも意見を頂いて考えていく。**

◆**他社線では運転士がお客さまサービスとして取り組んでいる所もある。**

◆2022年度は亀有駅～綾瀬駅間でピーク時106%。

◆駅によって混雑の状況が違う。特情を含め見やすいような画角調整を行っているところだ。

●その他について

組合

会社

◆**今の段階で想定している訓練内容は。**

◆**現車訓練は考えているのか。**

◆営業列車では現車訓練は行えない。

◆**相互運用も教育・訓練等に含まれるのか。相互運用をすれば綾瀬運輸区に残れるのか。**

◆ワンマンに向けて取り組む訓練には車掌は入るのか。

◆提案を受ける前に、個人面談で「常磐緩行線はワンマンになる」と言われている。

◆**シミュレーターを準備出来次第ワンマン用に変更。**

◆**列車ダイヤ等で出来るのであれば取り組んでいく。**

◆開業前に営業列車で現車訓練を行うことはない。

◆**車掌の目線・知見の拡大で行われているもので、ワンマンとは別である。人事には影響しない。**

◆ワンマンに向けての訓練は入らない。区の中で車掌の持っているスキルは運転士に伝えて頂きたい。

◆これまでワンマンの話は、2025年～2030年に向けてと情報を出している。

乗務員もお客さまも不安にさせないために、実施ありきではなくしっかりと議論が必要だ！

地本は関係する仲間とともに運動をつくりだしていきます！